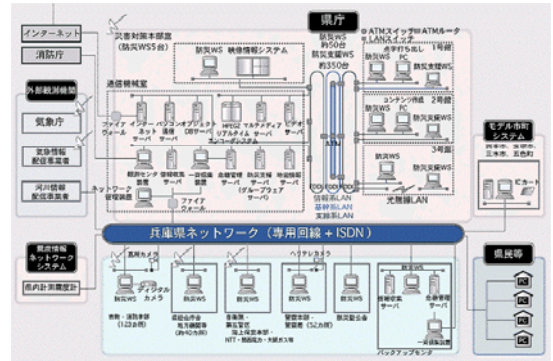


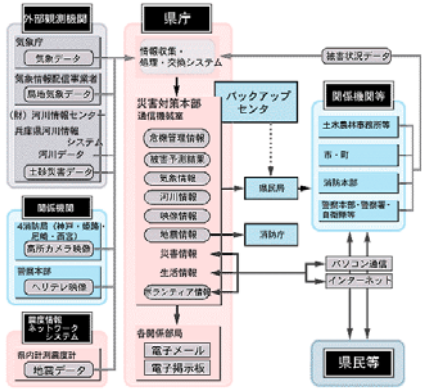
# CIP (2) 通信とコミュニケーション

京都大学防災研究所  
牧 紀男

## システム構成 <平常時から使える災害対応のネットワークと行政支援システム>



## 情報の流れ

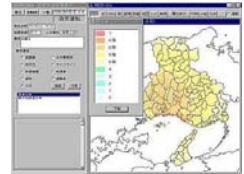


## もし地震が起きたら...



ポップアップ画面

地震が起きたら、県内0.1ヶ所に設置された地震計が地震を感知し、その震度情報がリアルタイムにかつ自動的に災害対策本部に送られます。震度3以上の地震が発生した場合、防災課長の指示で、アラーム音と共にポップアップ画面(左図)を自動的に表示させ、関係機関に地震の発生を知らせます。また、被害の状況に応じて、本システムの「職員一人ひとりに」も、災害対応要員を指示し、災害対策本部会議が速やかに開催されます。



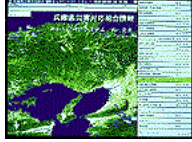
被害予測結果表示画面

震度4以上の地震が発生した場合は、地震による被害の範囲や被害を自動的に予測し、その予測情報を関係機関に提供します。この被害予測結果(左図)や市町村から入力・収集された被害情報をもとに、災害対策本部会議では、今後の対応策が検討されます。また、検討された結果や集約された各種情報は、県内各地に届り送られるネットワークを通じて関係機関に提供されます。関係機関が同じ情報を共有することにより、災害対応活動を円滑に進めることができます。

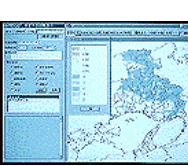
## 各種アプリケーション <情報収集と情報処理システム、情報交換システム>



兵庫県ネットワークシステム  
県内に設置した計画震度計からの情報を収集します。



震度情報収集処理システム  
気象庁、気象情報センター等からの気象情報および河川情報をもとに、震度、震動、震害発生システムにて処理・集約した結果を、防災WSに提供します。

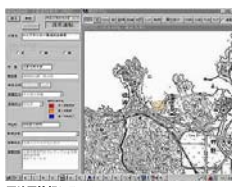


被害予測システム  
地震・気象情報をトリガーとし、地震情報、震動観測情報、人口統計情報などを元に被害予測を行い、防災WSの地図上に表示します。



緊急情報管理システム  
災害発生とともに、所定の緊急手順を防災WS上でガイダンスし、関係機関の一元管理を行います。また、電子マニュアル化した地震防災計画等を防災WS上で検索・参照することができます。

## 各種アプリケーション <情報収集と情報処理システム、情報交換システム>



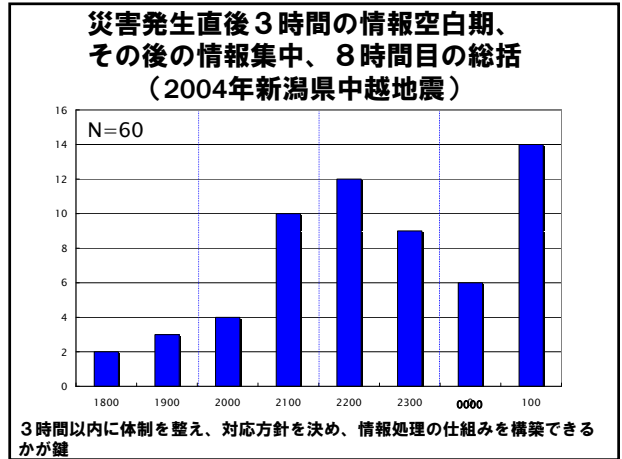
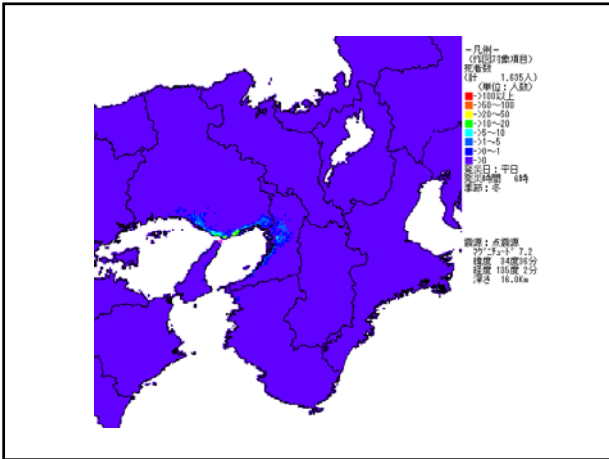
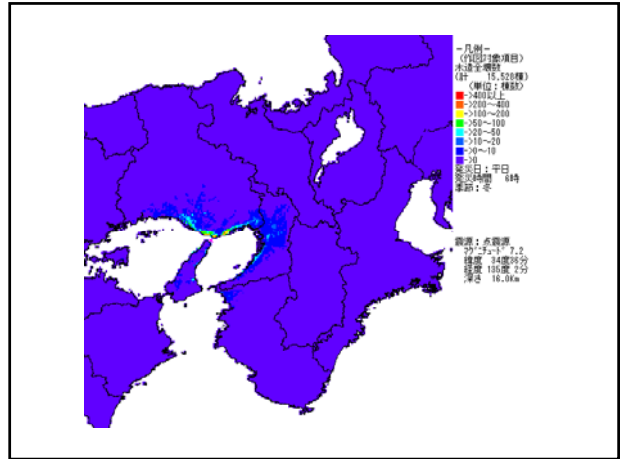
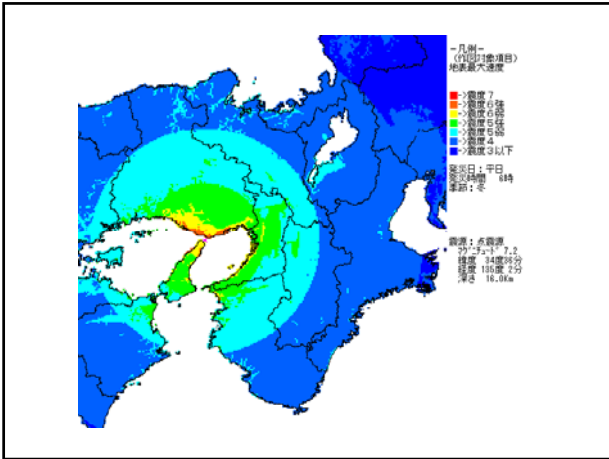
震度情報収集システム  
地震情報を管理し、被害地域等の各種情報を表示します。



震度情報管理システム  
市町村から届り送られる各種被害状況(文字・デジタルカメラ画像等)を管理・加工し、防災WSに表示します。



震度情報管理システム  
リアルタイム地震情報、ビデオオンディマンド配信により、震度情報、震動観測情報、気象情報等の映像および防災WS上の表示内容を、災害対策本部の大規模スクリーンに表示します。



**災害後の情報処理の目標  
＝状況認識の統一**

1. 必要な機能・組織
2. 情報処理

